上田市

まるこ福祉会「震災の心バトンリレー」

阪神淡路大震災29年の教訓を活かして

阪神淡路大震災から29年目の1月17日、上田市長瀬の（福）まるこ福祉会（柳澤正敏理事長）は、同会きらりホールで「1・1と1・17震災の心バトンリレー」を開催。利用者や地域住民ら約150人が集まり、震災への備えに心を新たにした。

同福祉会は、平成23（2011）年3月11日の東日本大震災の直後、柳澤理事長はじめ職員らが11トン車で被災地に支援物資を運んだ。以後も職員研修に行ったり被災地の物産を販売するなど、復興支援に取り組んできた。それ以後、バトンリレーは毎年の恒例事業となっている。

この日は「能登半島地震の被災体験」とし、同会職員の下村みゆきさん（56、腰越）が偶然遭遇した、能登半島地震体験を伝える。下村さんは家族11人で1月1日に石川県小松市に行っており、被災した恐怖の様子を「今でも不安で怖くなることがある」と話す。

続いて同じく同会職員の小山厚志さん（59、生田）が、能登半島地震現場の輪島市へ1月8日、救援物資を持って行き大雪のなか15時間かけて駆け付けたこと。また阪神淡路大震災当時に丸子町職員だった小山さんが、給水タンク車を運んだ様子などを報告した。

さらに阪神淡路大震災を大阪で体験した近藤小枝子さん（85、中央）が、10年日記に記している記憶を辿りながら地震の瞬間や被災の様子を語る。そして近藤さんの子息でヴァイオリニスト・近藤聡さん（東御市）が『花は咲く』などを演奏し、被災地にエールを送った。

近藤さんの『いのちの歌』の演奏途中で突然、「地震発生」のアナウンスが鳴り、全員が身をかがめて身を守ってから第1駐車場へ避難。全員の安全を確認してから第2駐車場へ移動し、同法人施設の断水時・停電時の対応状況の説明を受けた。その後、参加者は炊き出しで昼食を行うなど、大震災の教訓を様々な方面から学んだ。

能登半島地震救援活動の様子を語る小山さん

突然の「地震」の報に身をかがめる参加者

炊き出しの昼食に手を伸ばす参加者

第37回「東洋大学全国学生百人一首」

上田西高3年・遠山さんが見事に入選！

全国604校から6万3606首の応募

上田西高校3年・遠山こころさん作の短歌『まだ君と居たいと願う帰り道空けた左手うしろに隠した』はこのほど、第37回「東洋大学全国学生百人一首」で入選した。

同短歌コンテストは昨年9月15日～10月11日に募集し、全国の604校から6万3606首の応募があったという。東洋大学「現代学生百人一首」選考委で厳正な審査を行い、決定した入選100首などは1月15日にコンテスト主催の東洋大学が発表した。

『まだ君と居たいと願う帰り道
空けた左手うしろに隠した』

上田西高では毎年、国語科の取り組みとして全国学生百人一首に応募しており、今回は599首を応募。遠山さんの入賞は、同校通算18首目の入選となった。県内からは遠山さんのほか、小諸高校の生徒1人の計2人のみの入選だ。

主催者は、今回の応募作品は「コロナ感染症が5類に移行したことで、生活様式が元に戻って来た開放感・喜びと戸惑い・不安が多く詠まれた」とし、「推し」「AI」「物価高」などの新語・流行語や、社会問題などがテーマの作品も多く見られたという。なお東洋大は、2023年の世相が反映された入選作品をテーマ別に紹介している。

【学校生活・恋愛】では、『クラスTちょっぴりダサいデザインを着こなせるのはきっと今だけ』『マスク取りわかったことが二つある空気の美味しさ君の凛々しさ』『LINEとかなかった時代に生まれたい次こそあなたに直接告（い）おう』など。

【時事・社会問題】では、『福島の処理水放出安全性安心感とはまた違うよね』『「記録的」飽きた言葉と拭う汗耳は慣れても体は慣れず』『AIにレポート書かせAIにバレてしまったAI社会』など。

【日常生活・家族・進路／未来】では、『天才もAIももう足りていてそれでも私は美術を学ぶ』『40過ぎ推し活始めた母の恋そっと見守る父推し』『両親が在宅勤務してるから静かに開ける玄関のドア』など。

上田市

介護者のつどいなのはな

申し込み23日～2月2日

上田市の「介護者のつどいなのはな」は2月7日（水）午後1時30分～3時、丸子ふれあいステーション3階会議室で開く。内容は「体スッキリ、リフレッシュ体操」、講師は荒川玲子氏（NPO法人うえだミックスポーツクラブ理事長）「個別介護相談」（体操終了後、希望者に市職員らが相談に応じる）。対象は高齢者を介護している家族や介護者。参加無料。申し込みは23日（火）～2月2日（金）、丸子市民サービス課☎42-0092か武石市民サービス課☎85-2119。

上田市

上田女子短期大学附属図書館でイベント

「うえじょ としょかんのひ」2月3日

上田市下之郷の上田女子短期大学附属図書館は2月3日（土）午前10時～12時、同図書館2階でイベント「うえじょ としょかんのひ」＝写真＝を開催する。

同館では地域住民への施設や資料の還元、交流を目的とし、平成28年度から図書館講座を開催しており、今回のイベントは同取り組みを拡大して行うものだ。

当日は図書館講座のほか、上田にゆかりある作家・池波正太郎を紹介する展示や絵本コーナーの開放を行う。

図書館講座は、「『図書』の館（やかた）にある『本』でないもの―なぜ上女図書館にゲームがあるの？―」と題し、同短大総合文化学科専任講師・井上奈智さんが講師となり、図書館が提供する多種多様な資料群から、図書館の可能性についての講演を実施。

また講座の後半にはボードゲーム体験も行い、図書館業務に携わる人、司書に興味のある人など誰でも参加できる。さらに「上田を愛した作家池波正太郎展」は、市内の池波正太郎真田太平記館との連携企画として、池波正太郎の生涯や作品を蔵書とともに紹介する。

絵本コーナー〝おやことしょかんBiv（ビブ）〟の開放は、同館の所蔵する6000冊を超える絵本や紙芝居などの資料を、地域の親子が自由に利用できるもの。

赤ちゃん絵本やしかけ絵本、大型絵本などが充実し、おむつ替え・授乳スペースも設けている。

いずれのイベントも参加は無料で、図書館講座のみ要申し込み。定員は先着20人。

なお申し込みはGoogleフォーム（https://forms.office.com/r/mRCTi8iJsK）から。

中小企業向け
人的資本経営・日本版ジョブ型雇用システム
導入サポート

代表・社会保険労務士 山崎 隆延
特定社会保険労務士 田畑 茂
社会保険労務士 片井 稔
社会保険労務士 中島 聡志
社会保険労務士 平栗 拓朗
社会保険労務士 山崎 典子

認証取得
ISO9001 品質マネジメントシステム
ISO27001 情報セキュリティマネジメントシステム

duty and right
人財力を経営に活かす
社会保険労務士法人 コーチジャパン
Coach JAPAN 人財力を経営に活かす
詳細・お問い合わせは
コーチジャパン 社労士 検索
上田本社 上田市常田2丁目1-7 TEL:0268-24-1234